

奄美民俗文化の事例～徳之島井之川和田キヨ姫の生活史（２）～

著者	本田 碩孝
雑誌名	奄美ニューズレター
巻	32
ページ	23-35
URL	http://hdl.handle.net/10232/17878

■しまゆむた

奄美民俗文化の事例

～徳之島井之川和田キヨ姫の生活史（2）～

本田 碩孝（徳之島郷土研究会会長）

0. はじめに

奄美の民俗文化は多様である。すでに多くの蓄積があることは周知のことである。私は、それが集落や個人の生活史ではどのように受け止められているか、認識されているかという視点からフィールドワークを重ねている。その事例を報告するものである。

今回は、1982（昭和57）年12月28日（第31号）の続きの一部と1990（平成2）1月1日に御教示いただいた分を紹介する。方言文のままがほとんどなので、一部意訳や解説を加えている。話しは次々と続いているが筆者の方で適当に次のように分けてある。項目は次のとおりである。

1 カワセミ、2 キツツキ、3 話のこと、4 話の場、5 継子と二十日月、6 身体の様子、7 時間意識の変化、8 昼いき、9 働きと畑地の荒れ、10 大根など、11 畑の為、12 老いるとは、13 一人暮らし、14 紬織り関係、15 崖崩れで死ぬ運、16 伝承者、17 「もの言う亀」聞出し、18 昔人の知、19 ながらの人柱、20 霊を見る人、21 霊を見られた人、22 霊を出さない、23 竈を捨てる、24 月の糞、25 海豚が上がる、26 鯨が佐渡に上がる、27 父の好み、28 犬や鼠は龍宮から、29 朝露夕露

1. カワセミ

——くん コーカンち言えーるんせえっ（めん）。ありや いきゃしゅん訳いし うがし言ゅんがにしたたんちきゃ 聞ちねーらんかや。

コーカンぬくとうや 知らり。

（意訳・解説）カワセミ（川蟬・翡翠）をコーカン（直訳・川神）と言う。訳は不明。「コーカンのことは知らない」。川でエビ（タナガ）を獲っているのを見るが、沖永良部島ではタナガクレバト（エビをくうハト・岩倉市郎『沖永良部島昔話』280頁）と呼んでいるようだ。『奄美分類方言辞典』、『与論方言辞典』（菊千代他武蔵野書院）では共通語索引「かわせみ」で見出せず、『喜界島方言集』『与論島語辞典』（山田實おうふう）は共通語索引を見つけきれなかった。奄美本島でカンドウリ（神鳥）と聞いた気がする。赤ショウビンと同様に巣などにいたずらをするとう頭痛くなるなど鳥保護の思想があったのではないかと思うが課題である。なお、与論出身の町健次郎氏（瀬戸内町郷土館学芸員）は「与論にはカワセミがないのではないか。それで言葉がないのでは」と言う。喜界島郷土研究会の生島常範氏も「即答できない」と言う。鳥も減っているが方言も消えつつあるように感じる。

2. キツツキ

キーチキャぬくとうや あたんせえっ。うやがなしぬ □なたんとう、「ついやーや木い ちっち暮らせ」ち。

うやぬ、昔ぬちゅぬ うがし話しあていさんきいどうあんぬやっ。うがしテーキバナシま言ーなていやっ（うがしだれん。うまがしいーとんわ なるわけいだれんよ）。

昔ぬ話や、昔話やいろいろ あーむ な

ていやっ、昔ぬちゅや。

(意訳・解説) 啄木鳥のことはあった。親が死にそうになった。啄木鳥は化粧してきたら親の死に目に会わなかった。神が「木をつついて暮らせ」と。スズメの話が脱落しており「雀孝行」の断片を語っている。これもテーキ話と認識している。

3. 話のこと

話ぬくとう、ムンバナシち言ゆーむんだ。昔ぬちゅや、ムンバナシち言ゆーむんあたんせえっ。うわさぬくとう、ムンバナシどうやこうやち言ゆーむんあたしが。

——テーキバナシとうムンバナシや、いきやし違ごえるんが。

ていーちあらめい。むんばなし。あまなていムンバナシぬ。いちか話し声のくとうをムンバナシち言ゆんわけいあし。「隣なていムンバナシぬ聞きやるん」ち言ゆむんあたんせえっ。

あらむ言ゆんちゅやヒンギバナシち言ゆんせえっ。「ありが言ゆーむんやヒンギバナシだ」ち。いちから嘘のこと言ゆんちゅやヒンギバナシち。「ヒンギバナシしな」ち言ゆむんあんせえっ。

——タンギヤタレち言ゆんとまあれるんちよ。

タンギヤタレ。わんにま聞ちゃんくとうぬ あんで、タンギヤタレ。ぬぬくうとうがら あていねしがタンギヤタレち。うりが意味や分からしが、タンギヤタレち(井ノなていだれん?)。われんぐわあり、うやんきやぬ言ゆーむん。タンギヤタレち言ゆーたしが。

わきやま昔ちゅや。うやほうがなしぬ言ゆたんくとう。タンギヤタレぬやっ。聞ちゃんうべいが あーむなていやっ。なーつ、しか、大正ぬはじめいなていや(うがしだれんよ)。

(意訳・解説) 話のことをムン話と言う。テ

ーキ話(注1)との違いを聞くと同じと意識している。具体的にひそひそ話し声が聞こえるのもムン話と言う。嘘を言うことをヒンギ話という。伊仙町喜念などではタンギヤタレ(注2)などと言う。具体的にどのような話をさすかなど課題である。

注

1)「諺の類にもテキバナシといっている」「教訓的な内容を持った小話や世間話の呼称でもある」(松山光秀著「徳之島のことわざ」『南島説話の伝承』福田晃他編三弥井書店1982年)

2)「解説」には他の集落の呼称もあるが省略(田畑英勝編日本の昔話7『奄美諸島の昔話』日本放送出版協会1974年320頁)

4. 話の場

昔うやほうがなしんきやぬ。(上野、旧姓杉)チルばーた爺た、ヤウサダ爺ぐわたがわきやヤかち もーちか、話ちかやっ。「昔やいきやし しゅーたん、かーし しゅーたん」ち話ちかやっ。うりし、あんちゅぬ爺がねーかま聞きゆたんちよ。ヤウサダ爺ぐわた 話ち聞きやしゆたしがえっ。わきや、じーとう、くまマタバラヤドゥリぐわあり もーるたんちよ。

「へーだれんぐわ」ち。「もーれ」ち言ちか。いろいろムカシバナシ。いきやし語ろたんが。わーしてい なっ。めいじゃしめいじゃし 昔聞ちゃんむんをば めいじゃしゆんにしかやっ うべいるんあんぎあしが、わーきやま しか 脳がとうけいてい、わーしてい うべいらしが。たまーにめいーじゃしゆんとうきぬ あんちよ うねえ。はーつ、うがしうがし話しゆたしがえっちやっ。

——うりをば、ノートな書きじゃちゅきしよれよ。

っいやーんが言ゆんがにし、書きあていしゅーきばや、うべいるしが。きーさ うんがちぎ いじか わーしていえっ。品むん こーいがち行じか、きっさ うま行じか わーしていえっ。

(意訳・解説) 夕食後など近所の古老たちが訪ねてきて昔の話などをよくした。思い出すものであればすごいが忘れてない。たまに思い出すこともある。書き止めておけばよいがわすれる。

奄美は民話などの伝承が豊であることは間違いないと思うが、具体的伝承の場面の記録は少ないように思う。ひとつの例である。

5. 継子と二十日月

はちかぢきや、まんまぐわぬ ゆうういかみ うりち言ゆーしあんぎいや。

——うりや いきやしゆん 話だれんが。

まんまぐわ、うりや、ぬがー、昔ぬ うやほうがなしぬ はちかぢきぬ うさがりや まんまぐわぬ ゆうういかみ うりち。うにんたな まんまぐわや ちこていえっ。ぬーせ、くいせーち ういーまわち。はちかぢきぬ ちきぐわぬ うさがたんとう、うにん ゆううい かまちゃんち。うったけ いちか まんまぐわち言ゆーむんや憎あんしじ あし。はちかぢきぬ うさがらんま。はちかぢきぬ うさがりや まんまぐわぬ ゆうういかみ うりち聞ちゃんとう。

(意訳・解説) 二十日月のあがる頃が継子の夕食時という俚諺的な言葉がある。それまで継子を働かせて月があがったので夕食を食べさせた。

それ程、継子への対応は厳しかったのだろうか。『奄美のむかし話』(拙著、奄美文化財団2007年)に13話ほど紹介している。

以下1990(平成2)1月1日の御教示。

6. 身体の様子

ヤーだろあん、あむさんごしか、うりうりうりー (お茶菓子などをすすめてくれる。くりちまみ まーあんで。なー先ぬまんじょうや)。しぎゆとうま はりはり さーらり。しーか すぐん疲れていか だろはんぬ しーきらんごなり。はー、とうしやとりちやくねんどーヒロタカさん (むーるうがし思とうれるよ)。

(意訳・解説) お茶、菓子などをすすめてくれる。家で過ごすのにも疲れる。仕事も張り切ってできない。すぐ疲れがでる。年はとりたくないよ。

「ヤだろあん(直訳・家だるい)」は、家におれば、それだけで疲れるというような意味だが、珍しい使い方である。老いの身体状況。

7. 時間意識の変化

ふーん とうしぬ 一カ年行きゆむんやむんねいしらんせえっ。一週間ぬドラマにーちか、いっきゆた いっしゆー間 ねんごなるんせね。ひと月ねんごなるんせえっ。

われんありんや、一年ぬながー、いちん正がち きゆーむんがーち思ゆむ あたしが。

浜ぬ長浜か、あっちち、ぎりーぎり、しよーがち、裸足にし。

へく 正がちぬ ちーたはむ、へく浜をうりぬ ちーたあむち思ゆむ あたしが。

なーや、ゆぬ中。かし めーゆぬ中なたんとうきゃがら、日にちぬちきやーち言ゆーむんや。おんなし日にち あーむや あしが(一部不明)。

(意訳) 1年の過ぎるのは「(直訳)ものを見せない」という表現はめずらしい。テレビドラマを見ているともう1週間・1月が過ぎたかと思う。

子どもの頃は、1年間は長く正月や浜下りが待ちどおしかった。今は良い世の

中になり、1日が短い。昔も今も同じ1日なのに。

8. 昼いき

ひるいき さんま なっ いきやんち。
昼いき しゅんちよ。あしい かーでいか
すぐん。なーや、ゆっくり じゃや。ゆー
えーりや どうんなーりやっ。

(意訳・解説) 昼いきしないといけない。昼
めしを食べてすぐする。今はゆっくりだ。
夜明けが遅いから。

「昼いき」という言葉は、昼にゆっく
りする意味なのが珍しい。聞いた経験が
ない。「ちゅーいき」は、ひと息、ちよっ
と休むなどの意味がある。昼のくつろぎ
のようである。

9. 働き具合と畑地の荒れ

うがしなてい はる行じま チョチヨチ
ヨチどう さーるんぬ。ハリハリとう さ
っていか あーしが。

はるま ゆーじね。アラジなさん程度ぬ
しこぐわどう さーるんぬ。草ぬな。草ぬ
なっ、フーメイ草ちがんだえっ、うりうり
めいーてい。

(意訳) 畑でもちょこっとしか仕事ができな
い。張り切って畑仕事ができるとよい。
畑も雑草(フーメイ草、和名不明)が繁
って荒れている。

10. 大根

わーデークネイヤ いきやしやちか
むーる さーかち むーてい。アンバ虫ぬ
あむさんとう。アンバ虫ぬ予防ま二回さー
しがえっ。うんか なーじくぐわぬ かつ
しにしゅしが、なーじくぐわぬいじいてい
ち。さーば むーる とうていち わー
しゅわ。かーべんしゅむ。はーっ しじぬ
いっち。うっしゅむ網なーてい。キリブシ
しーま ゆーじねーやち思ゆんちよ。しじ

ぬ いっちゃんげえか。

むんちくりま やっぱり。□言ゆーしが
むんだま 作らだていか ゆーじねむえっ
ち。わーなっ、うっさな・・・。

(意訳・解説) 大根も雑草がしげった為によ
くできていない。成長せず芯ができてい
る。

作物も手入れをしないとだめだ。「むんだ
ま」もあまり聞かないが、だめな場合に
使う。

11. 畑の為

えっ、タネイムン三千円がちんべ。こー
ゆんだ。うっさがち こーていたーえっち
どう思いや しゅーり。かつしゅむ やっ
百円べな百五十円べなし あんど。

あーしが、また、はて うむさんげかア
ラジなりなてい。わんが さんご なてい
か。秀夫や、うがし言ゆんちよ。「いちんか
さんごなていかアラジなりあらや」ち。な
るほど いちんかやアラジなりや なり。
なりや あしがや、わんが生きちゆる ま
ぎり、どうくあん まぎり。ぶーんとう
さーらんごなていか仕方ねんせえっ。さー
る限りぐわやしー、うがし 手いっさまた
たんごなてい、いんきま ならんごなり。
むんまかまらんご なり。うにんや なっ
はんなぎいり(笑い)。うがしあしが、あっ
かる限りあっち、どうや、やみゆんと や
ーでいまやっ。気張てい しんにやししがち
思ゆ。考げていや をうーしがえっ。

(抄訳) 種物などいろいろ3千円分くらい買
う。できた野菜を3千円分買った方がよ
いと思う。種子を買わなくてもよいとも
思う。しかし、何も畑につくらないと荒
地になる。自分が出来る限りはしたい。
すっかり出来なくなったら仕方がない
(2006年には、畑仕事などできない様子)。

12. 老いるとは

はーっ、うがしあしが、かっしにま う
ーむんなとうむされーち思ゆんむ。

おとろっか。□よーりしゅていか 睡眠
不足しか ちまらんぎあんせね。うがしか
また寝いんで、また 五時に しばりに
うふーあるんちよ。あぐまーむなてい。五
時や ふえーあんせえっ、うがしか また
寝いんであんちよ。七時半べーなていか□
あがんま 行きならんご。

護岸行じ じーとう かし しーちよ。
くし ぬばちゃりえっ。しょーがち なた
い うがし さーしがやっ。首かしいんか
ちゃり、肩うんぶり さーり ぜーとう□
うんか ぎりーぎりぐわ ふえあんとうき
や。あんまり遅くなていか ぬぶーり あ
っからんせえっ。ちゅに□さってい あっ
からむなてい。はやーんとうき あっかる
しがやっ。

□あっからむなてい ぬぶてい にゃん
だ。いちんがら わーきや ぬぶたんせえ
っ。うにんニギヤナ取ていち うにん ぬ
ぶりなり。うんなり行きや。

いるいる くしょうぬうくりたり、いる
いるさーりしか。しぎゆとうぐわ さーり。
(意訳) こんなに老いるものだ。目が覚める。

睡眠不足になるといけないと、また寝る。

7時半頃起きる。護岸に行き、腰を伸ば
したり、首を動かしたり、肩を振ったり
する。あちこち故障が出たりして仕事が
できない。

13. 一人暮らし

わーきやがり難儀なむんだやっ。やんべ
ぐわ さりり。うがーんうがーんぬ木い切
ちちみ。墓行じ さりり。いなぐ はんぎ
いり。はーっ、あんが じぎゆとうま さ
ーんま しまり。やぬ まわり。うなぐ
じぎゆとうま さんま しまり。内まおろ
ま さんが しま。うがしなてい なんて

げな あーむ しま たーむ。

(意訳) 一人で何でもしなければならぬか
ら難儀なものだ。庭掃除。あちこちの木
を切って積む。墓に行き掃除したり、砂
を運んだり男仕事もしなければならぬ
い。内まわりなど女仕事もしなければなら
ぬ。

14. 紬織り関係

なんてげな あーむしゅんとうきや っ
あよねうちぐわや。っゆくりが はやーむ
なてい ゆなべいぐわ また 八時べーん
たな ゆなべいぐわ しゅんちよ、うね。

なんてげな ゆなべいま さんご。ごっ
しゅん(5寸)べな うるむん あたしが
よ。なーや、ちゅつぬぎどう やっとうん
うる。

——ちゅつぬぎちか、何寸べーだれんが。

2寸5分か3寸べ あらんせ。っわや、
2寸5分ち思とうしがやっ。針ね、□どご
ろしむんぬえっ、うりうり まるきり は
かどらんノ口なてい、マサ子(キヨの姪、
名瀬市在住)に うがし電話けーたしがえ
っ。「うがしにしか しめ機ぬちゅに なん
が うがし言ちにゆん」ち言ちゆしが。「っ
わっなー(不明)あんがむんぬ きっこう
がら(亀甲柄、龍郷柄ともいう)うくりち
がり」言ちやしがえっ。「あり □うくらい
ー」ちがり、っわっ、言ちやしがえっ。

「うがしにしーか うりちゃくねんどー」ち。
うがしなてい、あり うちやげいたんちゅ
ぬ 「しめ機し うちやげいたんちゅぬ奥
さんやゆたーあたんで」ち(不明)かん
うくりむんあしがえっ。

「あーあー、はじめいてい。こんなノロ
うちやげいたん くとうや ない」ち言ち
ゃんち。うがしなてい うちやぎいたんち
ゅま わかとうむ なたいや。うりならん
ちよね(不明)。

(意訳) 日暮れがはやくなり、夜の8時頃ま

で夜業の紬織りをした。今までは夜業をしなくても5寸ばかり織ったが、今は2寸5分から3寸がやっとだ。今回織っている紬はとても面倒なので姪に電話をかけたほどだ。締め機をした人でもはじめての紬だと言ったそう。それくらい面倒な柄で、織り慣れているきっこう柄を送れと言ったほどだ。

15. 崖崩れで死ぬ運

—うりから めー聞ちゃんくとうぬあれるしが、ヤーたっち行きゆんとうき、崖ぬくんでるんち言ゆん話。ツイヤージぬ話。

嫁入りぬ話 (ゐん)。

—嫁入りしゆんとうき、崖ぬしゆーかち行じゃんとうきや、くんでていち・・・

うり、ついヤーきゃ爺 (本田喜志宝) がどう話しむん、わきゃ聞ちゆてい。聞きむんだ。

—うり いきゃしゆん話あれたんがやっ。

ゆだりしーが 行じゆたんとうきやがえっ、 たーり、シマぬちゆぬ。ゆだりしーが行じゆたんとう。うう雨いぬ降たんとう。エーかち雨いはりらしが行じゆたんとう。うんから、神様んきゃぬ しっち、

「ゆさりや井ノなるんがぬくわぬ まーりり (ゐんがぬくわちがら まーりり)。カンニなをうなぐぬくわていごらるあ まーりるしがら。うんから、何年後いじ なったり一緒になるしが。うにん また 雨いぬ降うーてい しっち、エーっち雨いはれいらしゆしが、うにん くんでや 崖ぬうむしっち (はんていていち) うんなていもーりしゆんちがら」聞ちゃんとう、うり聞ちゆむなてい。

ちようど聞ちゃんがにし どうーどうぬくわぐわ あーてい。うんくわが うがし嫁入り しゆんげえしなてい。

うにん雨いぬ降たんとうきやが、エーかち雨い はれいらしが 行じゃんとうきや

がら。うにん、うり聞ちあーむなてい 雨いはれいらさんご。嫁をば、娘をば、「へえく そーてい。雨いはれいらち しまん」ち飛びじゃちゃんとうやっ。とうびじゃしとう まじな エーぬ くんでて ちゃんち。うがし うんなてい助かたんち。

やっぱり、うっさ神様ち言ゆーむんや。七人ぬ神様ぬ よろてい 位ちきるんち言ゆんせえっ。クレち言ゆんせ。昔ぬちゆぬ言ゆーたんせね。

アーち まーりりとう まじな 七人ぬ神様ぬクレくーるんち。クライたぼちやっ、ブギンなるしま、ピンボなるしま、偉いちゆなるしま うむち言ゆしが。クライたぼるむ あんべだ。

—七人ぬ神様ちか、いきゃしゆん神様だれんがや。

いきゃしゆん神様がら、つわっ、うん神様やあていねしが。いちから 七人ぬ神様ぬ ゆろてい まーれてい きゆる うりたが、クライちきるんち。

—つうりや、シューイトウぬクライ、ガラデクぬちがぬ話や聞ちねーらや。

つわっーきゃ うっしゆむんや あていね。うなぐや、シューイトウ、ぬーイトウ、シューイトウちがら言ゆーたしがえっ。わーきゃトウミアキあじゃた (注1) あていあたしがえっ。

(意訳) 2人が漁りに行ったら、大雨が降ったので、洞穴に入り雨宿りしていた。(うつらしていたら) 神様などが来て、「今夜井之川に女の子が生まれ、隣村の神之嶺には男の子が産まれる。何年後かに二人結婚するが、その時も大雨が降り、洞穴に雨宿りに入る。崖が崩れて死ぬ」というように聞いた。それからちようど聞いたように自分の子が嫁入りするようになった。嫁入り途中で雨が降ったら洞穴に雨宿りに行った。「娘を早く連れて行け。雨宿りするな」と言って皆が飛び出した

ところ崖が崩れた。それで助かった。

それだけ神様の言うことはね。産ま
ると7人の神様がクレ（くらい、運命）
を付ける。

（解説）大島本島南部では、木が倒れて死ぬ
運命（圧死の運）をさけるが、徳之島で
は崖が崩れると伝承している。昔話とし
て整った形ではないかもしれないが、管
見の範囲で「崖が崩れて圧死すると聞く」
徳之島では初めての記録である。身近な
叔母が伝承しており吃驚した。田畑英勝
『徳之島の昔話』（1972年）の註に名
瀬 久留義高氏の伝承と岩倉市郎『喜界
島昔話集』四四「運定め（二）」に「崖が
崩れる」例を記している。

注

1) 父の呼称を他人が言う場合、長男、
長女の父と言うのが普通。富秋の父
（藤福秋）。久子あじゃ（長女久子の父、
本田富隆）。場所を言う場合もある。ナ
ダぬあじゃ（名田のお父さん、安田福
忠）。ハマぬばあ（浜の叔母、和田キヨ
をわが家ではさす）。直接名前を呼ばな
いのは童名や名を呼ばれることは従う
（「大工と鬼六」）民俗文化などと関係す
るのか課題である。

藤福秋翁は、キノぬカテウリかつぎ
売りの一人だった。拙編「徳之島の口
説」（島尾敏雄編『奄美の文化 総合的
研究』法政大学出版局1976年）と
して口説8話報告している。民話の伝
承者でもあったろう。

16. 伝承者

つわーきゃま 昔ちゅや、昔ちゅじゃや
ついやーきゃが爺がにか むーる聞ちあー
むなていどう わきゃ うり知っちゅんで。

ヤウサダ爺ぐわた、サワディン爺ぐわた、
むーる うんちゅきゃにかやっ、いろいろ
話聞ち。

（意識）私なども昔の人だね。編者の祖父
（喜志宝）から聞いているから知っている
のよ。杉ヤウサダ爺、杉澤伝爺などから
もいろいろな話を聞いた。

17. 「もの言う亀」聞出し

——カメイぐわぬ むん言ちゃんち言ゆん
話や うべいじゃせらんせ（亀と瓶がある）。

和田：カメイ。

——ゐん、亀ぬむん言ちゃんち。しょーが
ちぬゆる。

和田：しょーがちぬゆる。

——とうしぬ ゆる。

和田：聞ちゃんくとう ねー。

—— うん行じ、ゆだりあてい しーくん
ばち行けたんあんべ。むん言ゆーむんぬ聞
きゃるたんべちよ。ぬがいーちにちゃんど
うきゃ（ゐん）。亀いぬむん言ちゅたんち。

ういんやーえーてい なんするか くん
やーえーてい なんするか うやぬみよう
ーじ たかぬ みようーじ
ち言えーたんべちよ（ゐん）。・・

和田：ついやーきゃ こーはたぬ爺や、
うがし言ゆんちゅ あたが。

ういんやーえーてい なんするか くん
やーえーてい なんするか。いきやていご
ろあちゅてい話しゅんちゅ あたしが。

亀いぬ うがし言ちゃんち、うんかち
ゆだり しーが行じゃんとう。えっえーえ、
ゐん。はいんぎやえー（感嘆詞）。

——うん亀いしづギンシャなるん訳いだれ
ん。

和田：うん亀いし（驚いて確認）。

——カメイぬむん言ちゃんとうきゃ、賭けい
しゅん訳いだれんよ。「むん言ゆんはずね
ん」。「むん言ゆん」ち、賭けいたん訳いだ
れん。

和田：はいんぎやえー。うんカメイぬ
くんでや あむし づンギンなたん訳いじ
やや、ふうーん。

——聞ちねーらや。

いるいるぬくとう、やっぱり ありや
あーむんじゃやっ。

——うん話ぐわ 聞ちねーらや。

わきゃ あんまり詳しくねー。

(意識) 大歳の晩に炊く米もないので漁りに行く。亀がものを言う「上の家をあけて何になるか。下の家をあけて何になるか親のみょうじ、たかぬみょうじ」。それが元になり金持ちになる。

(解説) 井之川で「もの言う亀」は『池水ツル姫昔話集』と姫の姉(『本田メト姫の昔語り』)でも収録している。妹は伝承していないことが解った。

話を御教示していただく時に、私も時には話を提供する。相槌を具体的にはどうするかの記事は不十分と思っているからだ。それを試みている。「ぬん」、「えーっ」、「えっえー」、「はいんぎやえー」、「ふうん」等々が具体例である。

田畑英勝氏の先行記録(『奄美諸島の昔話』320頁)などの検証が課題である。

18. 昔人の知

はいー、昔ぬちゅや、むーる いるいるあていあたしが。ぬがちか、なんきゃやテレビぬあむなてい、テレビにゆしが。昔ぬちゅや、むーる よろてい あねー、はなちやり、うっしゅんくとうどう楽しみあたんきいやっ。

わーきゃが われんぐわ ありんたなまうーむんがねーむんなてい ナーダンバリぐだーり。ぬっちがや、ムシアシビ。むーる浜しっち あしでい うがし かいむあていだ。

なーやしか、ヤか いじりご いらんせね。ヤな ちゃんとう うむが あむなていや(おう)。

(意識) 昔の人々の知は、寄りあって話をしたりするのが楽しみだった。今はテレビな

ど外の楽しみが増えた。自分が子供の頃も虫遊びの行事などは名田からも浜に下りて遊んで夕方帰るものだった。今は外に出なくてもよいからね。

19. ながらの人柱

——あんまり むん言ゆむんや、ナガラバシな ちまるんち・・・。

むん言ゆーむんぬ ナガラ橋なちまるんちよ。

——うりや、いきやしゅん話だれんが。

うりや、うーん 昔ぬあまな あたんくとう あんぎいや。木曾川ぬ。昔、生きうんび、ちゅー生きうんび しーか。あのながりらんち言ち。うしゅん話ぬあたんせ(おう)。うりま てっちむん。くんでや、くわーはんぎいてい 橋工事し、ながれいてい。じーとう橋工事 しゅーたんとう。くわーはんぎいてい ちがら りりやりギン ぬっちがやっ、「ありぬ やぶりと うんキン着ちゅんちゅ うんでいから、工事ぬ。(橋の流されるのが) 止うまるんていごろあ」ち言ちゃんとう。あとう とーとどうぬキンぬりりやりギン着ちゅていえっ。うむ さま おからんご なたんとか。

わーきゃま聞ちちゃん うべいぬ あーしが。

うりし むん言ゆーむんぬ ナガラバシなちみゅんちやっ。うがし 爺ががら 話しゅたんで。

——爺ちか たんだれんが。

喜志富爺よ、わきゃ産ちやる。あんまりむん言ち しまむんち。

(意識) 「ながら橋に積まれる話はしりませんか」。木曾川に生き埋めにされた話と同じだ。橋の工事をしていたら、よく流された。子供を背負った人が「りが破れている着物を着ている人を埋めると止る」というようなことを言ったそう。誰か探したら、言った人が埋められるように

なつたと父から聞いた。「いらんもの言うな」と父は寡黙な人だった。

もの言わぬ嫁、キジも鳴かすば撃たれまいなどは欠落している。

20. 霊を視る人

——うりや、ヤナギ爺が くとうや ぬんか うべいじゃせらんせ。

ヤナギ爺 (めん)。ヤナギ爺や、わきや われんぐわあり、うんとなどう をうたん あんべあしがえつ。

——ぬんとうしぬちゆぬ シキヤタとうりが きゅんち。

うり あらむがら、ほんとーがら。

「あね、あね、シキヤタとうてい行じあね。ありや あがし うちんち きゅーむなてい ありが ちらや わからり あね」。ちら かし はんさげいてい きゅんちゆまをうーり、ちら かつくちゆてい シキヤタ投げいていあむ しろてい かーでい行きゅんちゆま をうーむん あたんべちよ。「あね あね ありや ちら かし かつくち きゅーり たんがら 分からん」ち。ちら かし はんしゃげいてい ちーか、「たーん」ち。

「っいやーマブリぬシキヤタとうりがちゃんだ」ち、うりたヤ行じ言ちかえつ。うりや、マブリゆし しかえつ、ゆたーあむなてい。

昔どうあんぬ、なーや。

ちゅーぬ もーりさんげええか おとろあん。ちゅーぬ もーりし みきやみなんかち なたんげえか おとろあん ちぢきならむ あたしがえつ。

なーや、うっしゅんくとう ねんけいにおとろくねんせね。

(意訳) 「ヤナギ爺のことを知りませんか」。

私が子供の頃は近くに住んでいたそう。本当かどうか知らないが、「あら、あら、シキヤタ (注1) を拾いに来た」。「あの人はうつむいて来るので顔はわからない」

と。顔をあげてくる人もいるし、隠してくる人もいる。シキヤタを拾い食べて行く人がいるそう。顔をあげて来たら、その人の家に行つて教えてあげると「マブリゆし (霊寄せ)」をすれば良い。昔は人が死んでミキヤミナンカになると怖かったが、今はないから怖くないがね。

注

1) 葬式後に行われる三日別れに棺を担いだ人などが、煎り豆をまく。それをシキヤタという。詳しくは松山光秀著『徳之島の民俗 [1]』(未来社2004年)の「徳之島の葬制」118頁参照。

21. 霊を視られた人

ヤナギにやや、うがしあしが、いろいろ言ゆーたんだ。ありや むん にゆんちゆあたんがらえつ、

「あねあね あがん あがしに ぬってごらあ 行じゆり あね あね。あがしに ちーぶく はんじゃち うがし シタメイていっ ちし行じゆり。シキヤタとうてい行じ あね あね」ち言ちゃんとう。うりや たんがち言ちかMキユウぼーがとうじ あたんちえつ。うりや、やーなてい シタメイしー茶碗あろい しゅーたんち。マブリにち うんがまりか うーてい行じやんと。体や、うんなてい茶碗あろいし マブリや、シキヤタしろてい ちーあしえつ。

(意訳) マブリ (霊魂) が、シキヤタを拾いに行っていた。霊視する人に見られた。ヤナギ爺がマブリ (霊) の後を追って行つたら、本人は家で茶碗洗いをしていた。

22. 霊を出さない

昔ぬちゆや、よーあ 思とうむなてい。言ちから、ちゅーぬ もーりし みきやみなんかぬ とうきんきや 寝いんどうむうーち ゆううい かましゆむ あーていあらや。よーあていか、シキヤタとりが行

きゅんち（笑い）。

うりま迷信され一えっ。話がら、ぬーが
ら解りやさーしがやっ。なーがり うっし
ゆんくとうぬ あーりや。

昔や、ちゅぬ もーりしゆにしか おと
ろあんぬ みきゃみなんかち言ちちゃんげか
マブリ抜けいてい うーむち言ち ふーん
おとらあん。

（意識）昔の人々は。食べ物も十分でなくひ
もじい思いをしていた。葬式後の三日・
七日別れの儀式（ミキヤミナンカという）
があると、子供などが寝ていても起こし
て食事をさせた。霊がシキヤタを拾いに行
くのを心配してだ。それも迷信だろう。

23. 竈を捨てる

昔、うなぐぬ もーりしか カマくんや
ち かててい トーランクなちめいてい
かててい 行きゆたんせえっ。うがし あ
んとぬ うりぐち浜ぬ、うんとぬ なあぬ
ヨシオにゃたが、うりぐち浜 うま ごみ
捨てどん あたんせぬ。

昔、ついやーきゃが われんあり 浜う
りヤドゥリ ういーぬ うんとなやっ。ト
ーランクにちか おとろあんち ひんぎい
り ぶれく しゅーむん あたしがえっ。

ぬぬ為いし あんカマはんなぎいるたん
がやっち。うりが また ひんまらーん。

——カマや、でいんとぬ。

ヤーなてい つまち めーちゆんたん
カマよ。

——トーグラぬカマだれんや。

トーグラなてい くんでや むんしーど
んぬフーガマ。ハンシンにゆんせぬ いち
か うなぐが カマちこてい むんしゆむ
なてい。しか□カマんたな はなぎいらん
ば ぶーんとうな、むん めーはるんち
あらんかや。

——フーヤぬカマだれんや。

フーヤぬカマよ。

——ウインヤぬカマあれらや。

ウインヤぬカマがら、炊事場ぬ むんし
ゆんとぬカマあらんせ。

——つわっーきゃあまや、ウインヤぬ

カマち言えーるんで。うまなどう ウカマ
ガナシまちとうたんち。

あら、むんしゆんと一ぬカマ。

——カマぬたーち ねんとや、むんしゆん
とぬカマち。

わきゃや、しゅーなていどう むんしゆ
ーんぬ ういーなカマねーだたんとうやっ。
つわっ、カマ、ぬが はなぎるるや うり
が ねいーどう ひんまらー。

つわっきゃが われんぐわあり、トーグラ
あてい くんでち やつくていかやっ、□
——しょがちんきゃ、とうしぬゆるんきゃ
つまち けーちか いきゃむんち。

昔ぬちゅやよ。つまち めーち っな
んきゃ つまち めーさむ なていや。

（意識）昔は、一家の主婦が死ぬと竈を壊し
て棺を担いだ4人のうちの2人が担いで
浜に行き捨てた。宝島の浜下り口という
所にカマスに入れて捨ててあるのを見る
と怖いものだった。

何のために竈を捨てたのか不思議だと
話しているが、火の神の更新であろう。

24. 月（太陽）の糞

——つうりや、ていだがなしぬ くしゆぬ
話や聞ちねーらんかや。

ていだがなし（くしゆ）。ていだがなしぬ
とうし（くしゆ）。

——いんにや。

昔、あの一、くがねいぬ はんていたん
ち言ゆーむん あたしが（だーちだれんが）。
トゥビラかち。くがねいぬ はんていたん
とう、うり取うるんちさんとう なーかち
むーてい行じゃんち。

うり あらむされえー。くがねいや、は
んているんはず ねーしがやっ。

昔ちゆぬ 言ちゃんくとう されー。ト
 ッピラぬ でいんとがら あていねーしが。
 ショージ石ぬ 向こう、あんめいぐら
 だーがら。トッピラち言ゆーしが だーぬ
 トッピラがら解らんせねー。

トッピラかちくがねいぬ はんていたん
 とう。くがねい かし取るんちさんとう
 取るんち かし取るん さんとう、さ
 ーかち じーとう すいな さーかち む
 ーてい行じゃんち (笑い)。

「うりや ぬが」ち言ちゃんとう。

「ちきがなしぬ いんにゃ」ち (笑い)。

——ちきがなしぬ いんにゃ。

ちきがなしぬ いんにゃちがら、ていだが
 なしぬ いんにゃちがら 言ゆーたんで。

——セーし しくるんち さんとう。

セッし しくるんち さんとう。手いし
 がら すぐるんち さんとう。じんしょか
 ち むーてい 行じゃんち。

やっぱり うーしまきやなま うんしゆ
 ん例ぬ あーむや あたやー。

いちか、何か、金が銅かなてい 金いぎ
 りにしか 引きちきりゆしが、やっぱり
 せんきや うっしゆむんきやし しくゆん
 ち さんていや なーかち むーてい 行
 じゃんち 言ゆーり。

(意訳)「太陽の糞の話は知っていませんか」。

「昔、黄金が落ちて来た」と言うものだっ
 た。トッピラ (地名) のどこかに落ちて
 来た。取ろうとしたら、中にもれて行っ
 たそうな。「それは何か」。「お月様の糞」
 と言っていたよ。

(解説) 太陽の糞の伝承は、他に井之川
 (『池水ツル姫昔話集』147頁) に記し
 ている。キヨ姫は「月の糞」と伝承して
 いる。

25. 海豚が上がる

——グンジャぬあがたんくとうぬ あれる

や。

ゐん、っいやーきやが われんあり あが
 んま フンゴウウラかち あがたんせえ。

終戦後 あたわ。車。行きや。あま行じ
 むーる切りぐだちちゃんせ。っわっきやあ
 ーじゃだけや、わーきやにむっちやしが。
 っわっ行きゃんご。わーやな をうたしが
 やっ。終戦後、すぐん あたんで。むーる
 グンジャ切ちち、15しんちがら一斤10
 しん (注) ちがらやっ。昔ぬ税金とうりむ
 ん・・。

切りぐれー あたんち。

何十ち。あら、また グンジャち言ゆー
 むんや、ていーちが 何ぐわあてい、ぬー
 あてい さーだていか 一番最後ぬ むん
 たなま グンジャちがら、フィットウちがら。
 ていーちが行きゆんがにし ていっちが
 あがたんとう、フンゴウウラみーあがたん
 ち。

——うりやフィットウ。

フィットウ。フィットウちがらグンジャちが
 らよ、先ぬむんぬ ていーちぬ 餌とうて
 い かーでいか なんぐわ かーでい を
 うんしこ むーるに かましゆんち。うが
 し 20にしか 20にま かましゆむな
 てい。うがしなてい うりが あがりちけ
 たんげいか あがり。

(意訳)「鯨が上がったことはありませんか」。

フンゴウの浦 (地名) に終戦後だろうか、
 あがった。自由に切り取ってきた。1斤
 15銭かした。父が自分に肉を持ってきた。
 話ではイルカのような。何十も
 あがったそうだ。

注

1) 鯨と海豚を混同していたようだ。1
 斤が10銭か15銭であれば戦前の単
 位であり、終戦後のアメリカ統治 (昭
 和21年2月2日) 以前の時期という
 ことになる。

誰かが日記にでもつけてないかなあ。

26. 鯨が佐渡にあがる

ちゅけりや、グンジャや、鯨や サード
ウンバリかち あがていえつ。あがてい、
サードウンバリちゅが 切りぐんび しー
あたしが。

——うりや、くわーむんが あれたわ。

くわーむんが あたんがら、ぬーがら。
「グンジャぬあがたん」ち言ち。サードウン
バリちゅんきや むーる うむさんち う
べいぬ あんで。

(意訳) 一度は井之川の佐渡にも上がり、佐
渡の人々が切り積んであったそう。上
がったという記憶だけはある。

蛋白源の少ない島人にとって海からの寄
り物であり、ネラ(龍宮)の贈物だった
ろう。

27. 父の好み

っわっきやキシトウミ爺(父・喜志富)
や、あんまりよ うっしゅむ いるいる
さんちゅあてい。「あっしゅむ・(小声で不
明)・」ち言ちえつ。

フィットウんきやまえつ、「あっしゅむ あ
んまり・」ち言ち、こーてい かまだた
んちよ。うしゅむやよ、好でい こーいや
さんご。

くんでや、また 牛んきや くっしゅん
ちか。片しねい うんなり テイルな は
んぎいていちやっ、フーナベイな たんが
ちよ、かましゅんちゅ(時計の時報が入り
聞き取れない)。

十斤ま、二十斤ま 片しねいうんなり
ふねいせーせ こーていち フーナベイみ
ー たんがち しじていえつ。かまち、か
ーでいぬ めいじぬ あんで。

(意訳) 父は、いろいろな物に飛びつく人
ではなかった。イルカ肉なども「あま
り・」と言って好まなかった。ところが、
牛を屠したと聞いたなら片足分も買っ
てきて大鍋に炊いて食べさせる人だった。

28. 犬や兎は龍宮から

——インやネイラぬ国からちゃんち聞ちん
きや ねーらんかや。

わーっ知ら。

——ネイジミま。

ネイジミま?ほーっ。

(意訳・解説) 沖縄で言うネリヤをネイラ、
ネラと言う。稲穂由来の関係で犬、猫、
兎は龍宮から来た話がある。「知らない」
と言う。

29. 朝露夕露

——アサツユ、ユウツユち言ゆん まんま
くわぬ話んきや うべいじゃせらんせ。

アサツユ、ユウツユ。アサツユ、ユウツ
ユ、聞ちゃん うべいぬ あんがにしゅし
が。

——ままっくわぬ いきやしか さんち。

まんまぐわ あんぎいや。

(意訳) 継子話の人物だ。「聞いたように思
う」とだけしか覚えていない(「朝星夕星」
を『池水ツル姫昔話集』に掲載している)。

30. おわりに

シマは井之川という集落である。シマの
民俗文化をインテンシブに記録してみよう
とフィールドワークを重ねている。一人か
ら御教示いただいた民俗事象を別の人にも
確かめる形である(注1)。また、シマグチ
(島口、方言、注2)の記録も重ねている。
思うようにはすすまないが、いつか見えて
くるのもあるだろう。

注

1) 1990(平成2)年1月1日17
時から上野チル姫から御教示いただい
ている。

「徳之島民俗文化の事例～井之川上
野チル姫の御教示から」として『徳之
島郷土研究会会報』第29号(2007年度
中発刊予定)に投稿。民話を中心であ

る。

- 2) 方言表記は正確でない。夕食のことを「ゆうい」と記してあるが、「っゆふい」にも聞こえる。話しのながれでも変わっているかもしれない。

中本正智著「徳之島井之川方言の語彙」『琉球の方言 奄美德之島井之川』（法政大学沖縄文化研究所1979年30頁所収）では *j u φ i*（夕食）と記しており、*i* の上に点が2つ付く。「ふ」や「う」ではなさそうで特殊発音であるようだ。他の語彙にもあると思うが、後は専門家にまかすしかない。